

◆ シンポジウム・全体講演

シンポジウム「臨床教育学と私」

武庫川の大学院に入学した動機、そこで学んだこと、そこから生まれた今の問題意識について3人の方に自由に語っていただき、会場の方との交流も踏まえ、臨床教育学を通して感じ考えていることを浮かび上げさせ、「臨床教育学と私」というテーマに迫りたいと思います。

また、参加者の皆様にとっての臨床教育学との出会い、その後の実践・研究生活に関する話題も交流できればと思っています。

問題提起：岩崎 久志さん（流通科学大学）

小谷 正登さん（関西学院大学）

田崎 由子さん（大阪綴方の会）

司 会：木田 重果さん（西宮市教育委員会）

全体講演「ウクライナ侵攻、ポーランドから見えてくるもの」

非人道的な侵攻による民衆の傷つき、破壊の内実を、現地の感覚をもとに語り、当事者の視点から考えます。この講演準備に伴い、丸山さんとメールを交わしていますが、その中には次の文章がありました。

「この10か月間、人々の姿を見つめてきました。真剣に生きてきた人ほど、築き上げてきたものを破壊されたように思いますが、自分は家族が殺され、被害に遭っているにもかかわらず、支援する側に立ち、大奮闘を続けているケースもいくつか聞いています。」

報道では知ることのできない人々の真実を、丸山さんは見つめておられます。丸山さんの報告から、今なお続く軍事侵攻についてあらためて関心に向け、人間的な生き方を再考できればと思います。

講 師：丸山 美和さん（ルポライター、ポーランド・クラクフ在住）

◆ 研究大会参加の方法について

- ① 事前参加申し込み制といたします。2023年2月25日（土）が締め切りです。締め切りまでに下記のフォームあるいはメールからお申込みください。メールの場合、「会場参加」か「オンライン参加」かを明記してお送りください。

●Googleフォームによる申し込みはこちら：<https://forms.gle/h71T5ePCEhbsiYzo6>

→ スマートフォンやタブレットを用いて、右の二次元バーコードを読み取ってもアクセスできます。

●メールによる申し込みはこちら：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp



- ② 参加申込をいただいた方には、オンラインでの参加方法、発表要旨集録をメールでお送りします。
- ③ 「会場参加」「会場発表」の方は、感染防止のため次の点にご留意ください。
- 1) 必ずマスク等による飛沫飛散防止をお願いします。
 - 2) 受付では氏名・所属・電話番号の記入をお願いします。また検温をさせていただきます。（発熱などの症状がある場合は入場をお断りさせていただきます。）
 - 3) 建物入口や会場内にアルコール消毒の場を設けますので、手指の殺菌をお願いします。
 - 4) 会場内での発言は、挙手をした上でマイクを通じてお願いします。
 - 5) 借用している教室以外の場所やフロアへは立ち入らないでください。

自由研究発表の報告内容（2月20日時点）

第1分科会 司会：中村 又一（武庫川臨床教育学会副会長） 吉岡 眞知子（東大阪大学）

- ① 加藤 恵美子（大阪府公立中学校） オンライン発表
児童・生徒がつながり、教職員がつながる取り組みを通して
－施設分離型小中一貫連携教育の成果と課題（2）－
- ② 松島 英恵（新見公立大学） オンライン発表
保育記録（4歳児）より、「ごっこ遊び」を支える保育者の関わりを振り返る
- ③ 今川 裕太（関西学院大学） オンライン発表
教員養成課程におけるセクシュアリティ教育の導入に向けて
－『もあふるオンライン教育実習』における実践紹介－

第2分科会 司会：田崎 由子（大阪綴方の会） 渡邊 由之（東大阪大学）

- ① 伊藤 つばさ（東大阪大学こども学部こども学科4年） 会場発表
軽度知的障がいのある児童とその家族への教育的支援とは －Aさんの事例を通して－
- ② 中谷 梓（大阪府公立小学校） 会場発表
ゆっくりと書きたい気持ちが育つまで（支援学級での実践）
- ③ 荒木 実代（武庫川女子大学大学院 博士後期課程） 会場発表
教護院（現：児童自立支援施設）における学校教育の導入過程について－石川県とA県を例にして－

第3分科会 司会：長谷 範子（花園大学） 吉益 敏文（武庫川臨床教育学会事務局長）

- ① 田中 佑弥（中学校教員） 会場発表
河合隼雄『臨床教育学入門』を読む
- ② 二羽 礼（東大阪大学） 会場発表
保育者や学生の尊厳を考えるにあたって－「不適切な保育」をきっかけに
- ③ 上田 孝俊（武庫川女子大学教育研究所嘱託研究員） 会場発表
東日本大震災被災地の学校「安全」物語の検討

第4分科会（検討中） 司会：岩崎 久志（流通科学大学） 木田 重果（西宮市教育委員会）

※ レポート発表が増えた場合には第4分科会を設けます。最終的にはHPでご確認ください。

小さな学習会のご案内

4月1日（土）14時～16時（予定）※ オンライン開催

子ども理解のカンファレンスの意義（仮題）

福井 雅英（元武庫川臨床教育学会会長）

12月に引き続き、第2弾となります。子ども理解を基軸としたカンファレンスの在り方、コロナ禍を経た今、どのような子ども理解の視点が問われているのか、日本臨床教育学会副会長でもおられる福井雅英さんに縦横に語っていただく予定です。ZOOMを用いてオンラインで開催します。

参加希望の方は、事務局までメールでお知らせください。宛先はこちら mukogawarinkyo@yahoo.co.jp まで。お申込みいただいた方に、当日アクセスしていただくURLを送信いたします。締め切りは、3月29日（水）です。

シリーズ：私と臨床教育学⑮

語り合える場としての臨床教育学を

吉益 敏文（豊岡短期大学）

ある体験から

2011年の3月19日、武庫川女子大学で開かれた日本臨床教育学会の設立総会で、私は次のような発言をしました。「自分が働いている職場で若い人やベテランの教員が何も語らずに突然退職するという事態が続いています。あとから聞くと、学級が困難な事態になり一人で抱えこんで、皆に語らず辞めてしまったということです。病気になったり自ら命をたった人もいます。この学会が現場の教職員の悩みに寄り添い考える学会になってほしいです。（要旨）」というような発言をしました。当時、小学校の現場で働いていました。私自身も教職員組合の専従書記長の仕事を終え現場に戻った時、「学級崩壊」状態になり精神的にもおちこみ、外出もできない事態になった経験がありました。何度も「教師を辞めたい」と思いました。職場の管理職をはじめ多くの教職員の方に励まされ、困難な事態をなんとか乗り切れました。だからこそ一人で悩み自分を責め退職したり病になる人たちの事が気になっていました。もちろん困難な事態になった時、休職したり教師の仕事を辞めるという選択はおかしなことではありません。その時に自己責任や本人の力量だけの問題にするのではなく当事者の思いを聞き、安心して語り合える場が必要と思ったからです。そのうえで方向性ができればいいと思います。

支えになった3つの学び

大学院で臨床教育学を学ぶ中で3つの事を学びました。今日の学校現場では複数の困難をかかえる子どもたちや保護者が学級に存在すれば、どんなにベテランでも若くて元気な教師でも「学級崩壊」のような状態におちいることはあるということ。第2に子どもや保護者の攻撃的な言動は情動的表現としてとらえる。ワロンの身体、自我の概念から子どもの内面について考えるということです。亡くなられた石井邦也さんと自主ゼミの輪読会から学び深めました。第3に困難に陥った時に自分ひとりでかかえこまずカンファレンス会議などで提起することが大切である。医療現場のようなカンファレンス会議の質に到達するために何が必要かということを学びました。もちろん自分自身の実践についての省察や分析は必要ですが、この3つの見地は支えになりました。私自身の「学級崩壊状況」を俯瞰する上で大きな力となりました。

SOSを出す勇気を

私は大学で教師や保育士を希望する学生の人たち、NPOで放課後児童クラブの支援員の方たちと学ぶ機会があります。そこで困難をかかえた対人援助職の仕事にとって、自分の力で子ども（人）が変わったか自分の力では子ども（人）が変わらないなどと一面的に考えないように語っています。ある学生から苦しい時こそ「SOSを出す勇気が必要ですね。」という言葉を教えてくださいました。しんどい時、つらい時こそ素直に語る。それは簡単なようでなかなかできないものです。けれど人に語ることによって、自分で書いてまとめることによってだいぶ楽になります。臨床教育学を学ぶ小さな学会がそういう関係・場所・空間になってほしいなと切に思っています。

編集後記

▶第17回研究大会が目前に迫ってきました。今回は武庫川臨床教育学会の会員以外の方、若い人たちからの自由研究発表が増えました。会員の方たちの積極的な発表とあわせて学び合いたいと思います。▶後半のシンポジウムは大学院を卒業され、それぞれの持ち場で活躍されている3名の方々から現在の問題意識を縦横に語っていただく予定です。それぞれの参加者の方が「臨床教育学と私」というテーマで新たな問いを深めていただけたらと思います。▶昨年末に亡くなられた中井久夫の特集をNHKスペシャルで放映していました。『戦争と平和ある観察』という中井の著書を紹介していました。今、その本を読みながら全体講演の丸山美和さんのお話をじっくりお聞きしたいと改めて思っています。皆様との再会を楽しみにしております。<文責：吉益>